



山田副委員長「文化財をじっくり見て、感じて、質問する有意義な会となることを願います」



京都府の方の解説と共に見学開始。寛永の大火を免れた馬駐は、2011年解体修理。



清水寺のシンボル、仁王門。檜皮葺きだが、柱は樺。明確に使い分けられている。



仁王門後方にある西门。緑青を基調とした塗直しが数年前に行われている。



色鮮やかに塗りなおされた三重塔。屋根には、落雷対策の避雷針も付けられている。



成就院の正門であり、寛永の大火から再建された北総門は、2011年に解体修理された。



今回のメインとなる本堂にたどり着いた生徒達。紫外線対策で漆塗りが施されている。



保存修理を解説するパネルも設置。保存修理の意義や手法を分かりやすく解説。



清水の舞台。修理作業が完了し、既に足場は取り払われ、白い防護布で覆われている。



阿弥陀堂。今回の工事に合わせ、屋根の素材や如来像の位置などを昔に戻している。



50年ぶりに葺替えられた本堂屋根。檜皮取り職人の減少もあり、工期はかなりの時間を要した。



生徒代表挨拶「知らない事、分からない事をたくさん教えて貰い、とても勉強になった」